

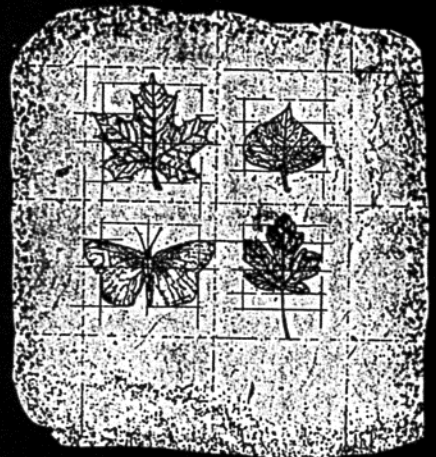
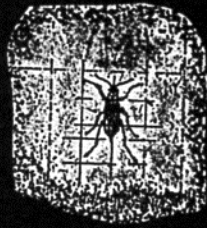
翔

百万石蝶談会

April

No. 131

1998



1997年アサギマダラ日記

松 井 正 人

6月1日 晴 白山尾添川流域

ウスバシロチョウやオナガアゲハの舞う中、オオカモメヅルとイケマを調査したが、卵、幼虫は発見できず。成虫は6頭を確認し、内2♂にマーキングする。

1997年6月1日 尾口村三又発電所 アサギマダラ 2頭目撃

1997年6月1日 尾口村一里野 アサギマダラ 2♂2頭目撃

6月8日 晴 押水町宝達山ピーク

オオカモメヅルを調査するも卵、幼虫ともに発見できず。成虫も確認できず、代わりにチャドクガに刺され背中がかゆい。林道工事で最大の吸蜜ポイントが消失し、アサギマダラの確認数は少なくなった。アサギマダラの飛来しそうな日陰に、イケマ1株、オオカモメヅル5株を植栽し、産卵されることを期待する。

6月15日 晴 白山尾添川流域

遂に発見。イケマから1卵、オオカモメヅルから5卵1幼を発見する。卵期7日間とすれば6月8日以前には産卵されていたことになる。1卵産まれていたイケマは、日当たりにあったものを数年前に木陰に移植したもの。成虫は2♂1♀を確認し、2♂はマーキングし1♀は採卵用に採集する。

1997年6月15日 尾口村三又発電所 アサギマダラ 2卵1幼(材炣ヅル)採集

1997年6月15日 尾口村一里野 アサギマダラ 1♀3卵(材炣ヅル)採集2♂目撃

1997年6月15日 吉野谷村途中谷 アサギマダラ 1卵(竹マ)採集

6月16、17日 晴 強制採卵

キジョランを使って産卵させたところ、16日に4卵、17日に11卵を産卵し、母蝶は18日に死亡。カルシューム入りモリナガコーラスを、日に1度朝7時頃に与えていたが、30秒程しか吸わなかった。6月22日から孵化が始まった。

6月24日 晴 金沢市高三郎山

登り6時間、下り4時間でピークまで行ってきた。20年前の山行記録は登り4時間、下り2時間、体力の衰えを実感する。イケマ、オオカモメヅルを調査し、オオカモメヅルから1幼を発見。

1997年6月24日 金沢市高三郎山 アサギマダラ 1幼(材炣ヅル)採集

6月25日 くもり 河内村口三方岳

前日の疲れで足が重い、ピークまで往復する。登山道沿にオオカモズルはたくさんあったが、卵、幼虫は発見できず。下山中、林縁部で旋回する1頭を目撃する。

1997年6月25日 河内村口三方岳 アサギマダラ 1頭目撃

8月2、3日 晴 白峰村白山釈迦林道

2日がかりのまともなマーキング。初日は5時間程、翌日は4時間程、同じ場所で行ったが、2日目の飛来数は少なかった。両日で122頭にマーキングできたが、♀は総て未交尾個体で新鮮な個体だった。夜は同地でライトトラップをして過ごしたが、標高1500mの気温はぐんぐん下がり、寒い夜だった。

1997年8月2日 白峰村白山釈迦林道 アサギマダラ 48♂27♀目撃

1997年8月3日 白峰村白山釈迦林道 アサギマダラ 24♂23♀目撃

9月13日 くもり 押水町宝達山ピーク

下界は晴れているのに、ピークはくもり。気温は25度でもブナ林の中は寒く感じた。広場を巡回するツマグロヒョウモンを見ていたら、ピーク上空を1頭のアサギマダラが飛んでいった。

1997年9月13日 押水町宝達山ピーク アサギマダラ 1頭目撃

9月20日 晴 輪島市高洲山から鉢伏山

高洲山からの眺望は最高、七ッ島から舳倉島までバッチリ見えた。舳倉島は平らな島で、灯台だけが白い煙突の様に立っていた。鉢伏山の北側は真新しいスギの植林地、この中にヒヨドリバナがたくさん有りアサギマダラを確認。10日程早いと、もっとたくさんのアサギに会えた様な気がする。

1997年9月20日 輪島市鉢伏山 アサギマダラ 2♂1頭目撃

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

短 報 31

ツマグロヒョウモン	1997年9月13日	押水町宝達山	1♂目撃	松井正人
ツマグロヒョウモン	1997年10月10日	金沢市大和	1♀目撃	澤田 博
ツマグロヒョウモン	1997年10月13日	辰口町金剛寺	1♀目撃	牧原悟郎

輪島市三井の甲虫類

松井正人・井村正行・西原昇吾

輪島市三井市の坂でライトトラップを行い、ライトに飛来した甲虫類を採集した。このライトトラップはゲンゴロウ類を狙ったもので、雑木林に囲まれた水田地帯を見下ろす位置にセットした。しかし、月齢が悪く8時頃から満月のような月が昇りだしたので、飛来数は少なくゲンゴロウの仲間は5種しか得られなかった。

報告に先立ち、同定していただいた高羽正治氏に厚くお礼申し上げる。

1997年7月20日 輪島市三井市の坂

1. アトモンミズギワゴミムシ <i>Bembidion niloticum</i> (Arrow)	1 頭
2. クロモリヒラタゴミムシ <i>Colpodes atricomus</i> Bates	1 頭
3. ケウスゴモクムシ <i>Harpalus griseus</i> (Panzer)	1 頭
4. キベリゴモクムシ <i>Anoplogenus cyanescens</i> (Hope)	75 頭
5. ケシゲンゴロウ <i>Hyphydrus japonicus</i> Sharp	1 頭
6. チビゲンゴロウ <i>Guignotus japonicus</i> (Sharp)	1 頭
7. キベリクロヒメゲンゴロウ <i>Ilybius apicalis</i> Sharp	1 頭
8. ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus pulverosus</i> (Stephens)	4 頭
9. コシマゲンゴロウ <i>Hydaticus grammicus</i> (Germar)	1 頭
10. キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	3 頭
11. ガムシ <i>Hydrophilus acuminatus</i> Motschulsky	1 頭
12. ヤマトゴマフガムシ <i>Berosus japonicus</i> Sharp	2 頭
13. アカビロウドコガネ <i>Maladera castanea</i> (Arrow)	3 頭
14. ナガチャコガネ <i>Heptophylla picea</i> (Motschulsky)	1 頭
15. ドウガネブイブイ <i>Anomala cuprea</i> Hope	1 頭
16. ヒメコガネ <i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	14 頭
17. オオスジコガネ <i>Mimela costata</i> Hope	1 頭
18. スジコガネ <i>Mimela testaceipes</i> Motschulsky	7 頭
19. ヒラタドロムシ <i>Mataeopsephus japonicus</i> (Matsumura)	24 頭
20. クシコメツキ <i>Melanotus legatus</i> Candeze	1 頭
21. ジュウロクホシテントウ <i>Sospita oblongoguttata</i> (Yuasa)	1 頭
22. エグリゴミムシダマシ <i>Uloma marseuli</i> Nakane	1 頭
23. クロカミキリ <i>Spondylis buprestoides</i> Linne	2 頭

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

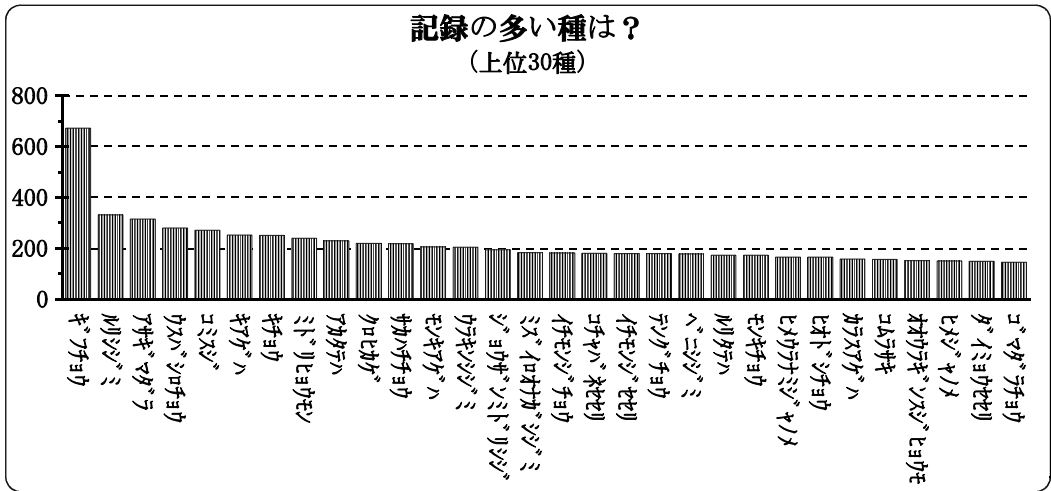
《にしはら しょうご 〒920-0912 金沢市大手町7-11-108号》

「石川県の蝶の記録」大集計

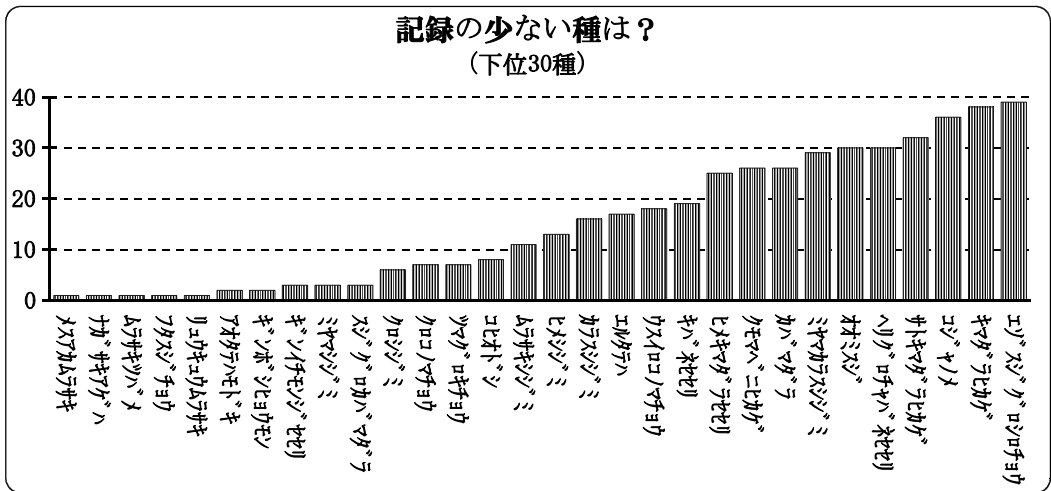
松井 正人

未発表記録を含め筆者が集めた石川県の蝶の記録、およそ13,000件を使った大集計を紹介しよう。

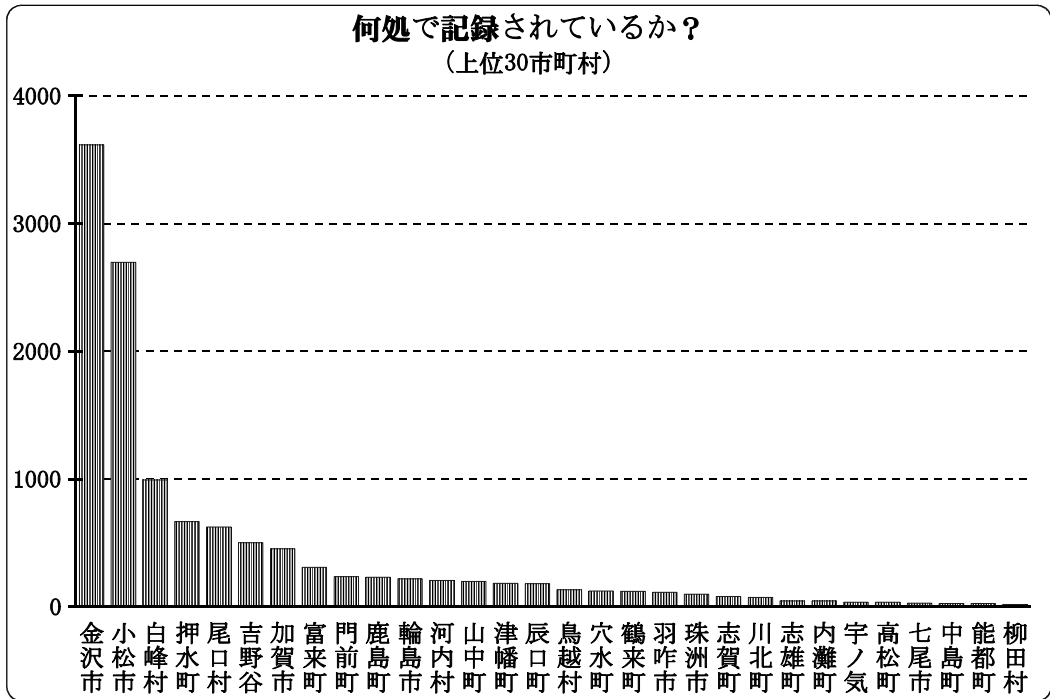
使った記録は、1996年までのもので、記録の内容には触れていない。1頭の記録も100頭の記録も、どちらも1記録として扱っている。



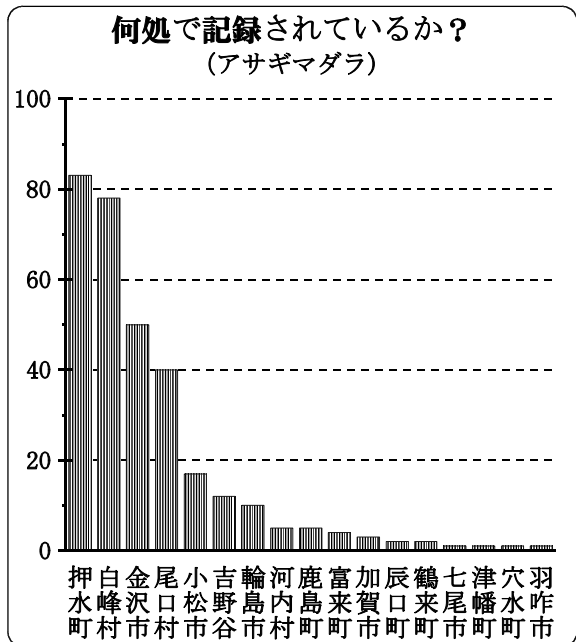
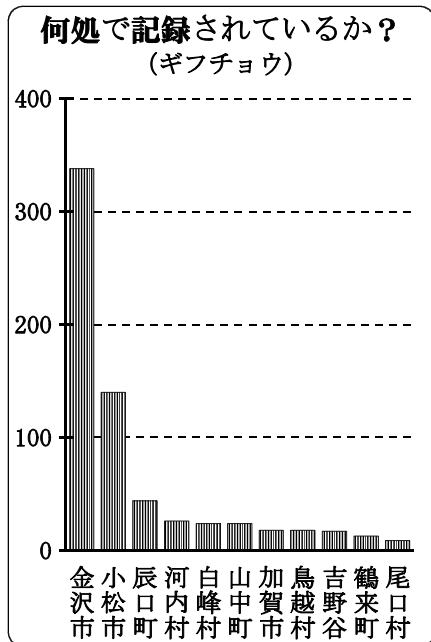
どこでも見られる普通種で占められている中、人気のあるギフチョウはぶっちぎりの1位、筆者の個人的興味の対象となっているアサギマダラが3位に食い込んでいる。

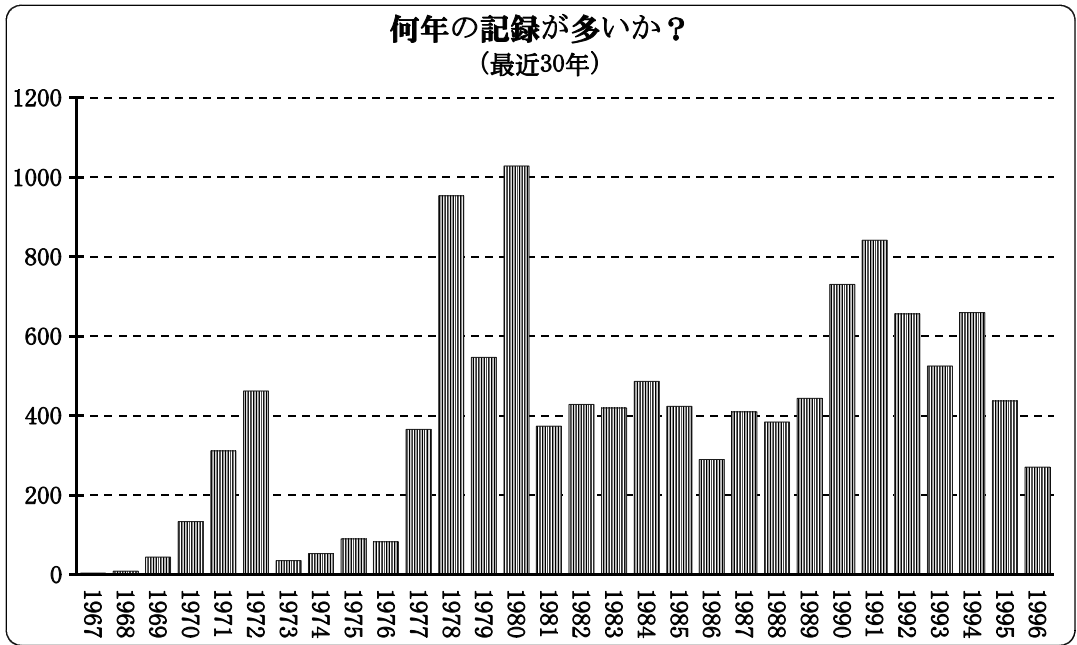


最下位からウスイロコノマまでは、迷蝶と希少種のレベル。カバマダラは、迷蝶ながら県内で発生したので普通種レベルに位置している。

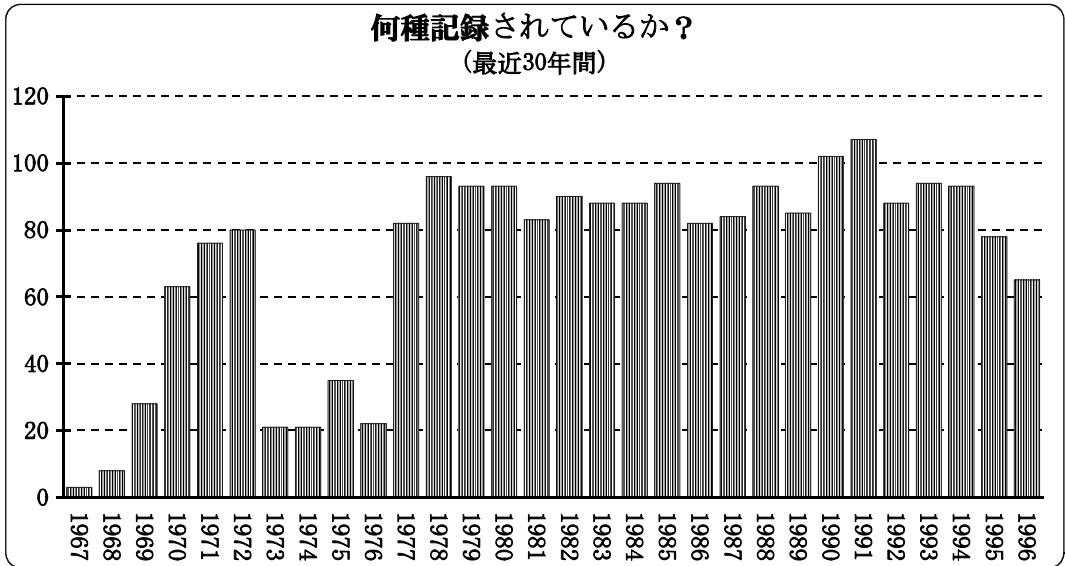


金沢市と小松市には虫屋が多く、白峰、尾口、吉野谷の白山を取りまく市町村には好採集地が多い。この中に食い込んだ押水町は、アサギマダラの好ポイントを抱えている。





記録のほとんどは筆者のものであり、1970年は高校1年、1973年～1976年は金沢を離れ、1981年は現在の会社に転職している。



石川県で記録されている種は125種。1990年と1991年はその8割100種を越える種が記録されている。

昆虫関係ホームページをアクセスしよう

嵯峨井 淳郎

世はまさにリストラ時代、マルチメディア時代。百万石蝶談会会員諸志もマルチメディアに乗り遅れていては、これからの昆虫界の動向にはついていけなくなります。会誌「翔」を読んでいると、MACや98を持っている人、色々いるみたいですが、今後のMM時代に生き残れるよう心してほしいと思います。

何か偉そうな書き出しをしてしまいましたが、かく言う小生、数年前会社でリストラの対象となり、長い間の職籍を奪われ、全く未知の分野へ左遷され、朝から晩までパソコン類にとらめっこ。まず、会社へ出勤と同時に机上のパソコンをSW-ON（社員全員に一台貸与）。勤務管理システムを立ち上げて、勤務表に〔出勤〕を投入する事から初めて、E-MAIL（EUDORA）を覗いて自分宛のメールがないかを確認し、必要ならばメールの返信を送信したあとは、作業用の各種アプリケーションを駆使しての文書作成等が、毎日の日課となっています。その他、社内、部内、課内の供覧物は総てメール（紙減らしを目標）。会議にいたってはTV会議システム、あるいはフェニックスを利用（旅費の削減を目標）。お客様に対する提案書は全てPPT（パワーポイント）作成イメージ、等々。

私の座っている部内では、MM、インターネット、LAN、WAN、等の技術用語が飛び交い、MICRO-SOFT社認定の技術認定者も数人在籍（もちろん若い社員）していて、彼等と共にLAN技術の指導、企画、設計、システム構築を社内外に普及する業務をこなしています。

我が社が推奨するISDNを利用したインターネットアクセス用の機器類の接続方法やそれらに対する必要なAPL用のインストール方法、サーバーが立ち上がったあとのサーバー管理等、何回か研修も受け、更にホームページの作成方法についても大阪まで出かけて習ってきたおかげで、自分であちこちアクセスし昆虫に関するホームページを探し当て、インターネットに少々はまりこんでしまった今日この頃でしょうか。

お奨めの昆虫関係ホームページ

まずは、Jamides Home page（発信元：東京・高波雄介）

アドレス <http://www02.so-net.or.jp/~jamides/>

内容は、東南アジアに関する蝶がメインであるけれど、一番の目玉はなんと言っても「蝶と昆虫のリンク集」であろう。とにかく、このホームページのサイトを一個ブックマークに登録しておけば、後は何時何処へでも、昆虫に関するHPへアクセス可能となる。

1) 蝶に関する推奨サイト

- | | |
|---------------|----------|
| A. 京都山城蝶だより | 宇高 敦（京都） |
| B. 徳島の蝶 | 小池 明（徳島） |
| C. 小林望光ホームページ | 小林望光（長野） |
| D. 誤苦楽蝶 | 三谷晃良（愛媛） |

- E. 蝶と高原の草花 亀田幸雄 (東京)
 F. Zephyrus 近藤秀男 (愛知)
 G. 宮崎の昆虫 小林孝寛 (宮崎)

2) 蛾に関する推奨サイト

Hetero World Home page 松井弘見 (三重)

筆者もかつて狂ったことのある日本の *Catocara* のページがあり圧巻。ほとんどの画像は標本写真であるが、生態写真は本会会員「野中 勝」氏の協力で掲載している。

3) カミキリ等甲虫に関する推奨サイト

Esacerus Home page 杉村明道 (愛知)

内容は風刺が効き過ぎていて (バチクワ、ツルハシとか)、筆者には今一つピンとこない。ホームページとして世界に発信する (?) となれば、第三者にも十分理解できるような記述内容にしてほしいものだが。画像、その他データ等は素晴らしい。このホームページにも「野中 勝」氏の採集スタイル写真等が載っている。

4) クワガタ関連サイト

多数のサイトが存在するが、各ホームページの最終リンクまで奥が深くアクセスした事がなく、どのサイトが推奨に値するか、立派であるかは、ここでは書けない。他、オサムシ関連のホームページ (1サイト有り) がほとんどないのが寂しい。

5) 外国発信の昆虫サイト

数限りなく無数に有るが、クライアントの端末の機能等により、欧州方面のサイトの一部に読み込み不良が発生し易く、文字化けし易い欠点がある。

6) 最後に我石川の昆虫に関する3ホームページ

- A. 金沢の昆虫 北川章夫 (金沢市)
 B. 赤とんぼネットワーク 上田哲行 (野々市町)
 C. 蝶とトンボのホームページ 天野勝広 (輪島市)

この原稿は、1年以上も前に殴り書きの状態草稿放置したものを、訂正書き換えたもので、当初は、

1. ホームページをアクセスするための前提条件
2. インターネットの接続構成
3. アドレスの構成

といったシリーズを準備していたが、MM界の動きは早い。今頃そのような内容を掲載したのでは、昆虫界の「もの笑いの種」にされてしまうのがオチ。あえて割愛した。なお、各サイトのアドレスは発信者の許諾を得ていないので、未掲載とした。必要な方は、Jamides Home page を見いてほしい。

《さがい じゅんろう 〒920-8145 金沢市額谷3-18-2》

石川県ふれあい昆虫館、7月にオープン

富 沢 章

鶴来町に県立の昆虫館が今年7月、オープンします。ここではその概要を紹介しましょう。建物は鉄筋コンクリートの2階建て、延床面積が2700㎡で、主要施設は放チョウ温室、1階と2階の展示スペース、多目的室、飼育室、食草温室、収蔵庫等で、建物の周囲は将来、野外生態園として整備する予定です。

昆虫館のコンセプトは「楽しく学ぶ」「昆虫を通して自然の理解を」であり、展示内容は子供向けとなっていますが、大人も十分楽しめると思います。

展示内容を紹介しましょう。1階部分の展示は、まずジオラマコーナーで、日本の雑木林、アフリカ草原、ツンドラ、熱帯ジャングルにすむ昆虫をジオラマの中で紹介します。昆虫の本格的なジオラマ展示は日本でも初めてのもので、同時にジオラマと関連させた映像も映し出されます。

次のコーナーは、世界のさまざまな昆虫の標本約1,000種が生物地理別に並べられ、昆虫の形や色のおもしろさが十分楽しめます。また、擬態や種内変異など昆虫の不思議さを知ってもらう展示もあります。ここを見終わると、次は生きた虫の展示コーナー「昆虫ウォッチング」で、テラリウムが7ヶ所、アクアリウムが3ヶ所配置されています。普段見ることのできない昆虫の食事、動き方が間近にゆっくりと観察できます。ここに展示する虫は、擬態で有名なオキナワナナフシ、フタホシコオロギ、ベニモンサシガメ、カレハカマキリ、オサムシ類、バッタ類など主に亜熱帯系の種類です。アクアリウムにはゲンゴロウ類やタイコウチ、ミズカマキリを考えています。

そこから廊下を少し歩くと、放チョウ温室「チョウの園」の入口です。放チョウ温室は、ゆるい登り坂を曲がりながらあがり2階に通じています。約330㎡の温室内には亜熱帯性の植物が植栽され、飼育した南方産のオオゴマダラやリュウキュウアサギマダラ、シロオビアゲハなどや県内にいるスジグロチョウやコムスジなど7～8種のチョウの飛ぶ姿、吸蜜が観察でき、昆虫館の目玉となる施設です。

放チョウ温室を登りきると2階の展示スペースにつながります。ここは大きく4つの展示コーナーに分かれています。最初は「人間生活と昆虫」をテーマに昆虫食、昆虫産業、昆虫の工芸品が鑑賞できます。「石川県の昆虫」では県内の代表的な昆虫の写真や標本、地域別に昆虫を紹介するタッチパネルパソコンが2台設置されています。また、県内の方々から提供された昆虫生態写真の一体化展示や「白山の昆虫」をテーマにした展示コーナーもあります。

次は「昆虫とは」のテーマで、昆虫の形態、食物連鎖、進化、生態などについて学習するコーナーで、パソコン、パネル、模型を使って展示しています。最後は特別展示コーナー、オープン時には「カブト・クワガタの仲間」をテーマにコガネムシ上科の分類や生息場所

を示した大型パネルや世界のクワガタの仲間が約50箱の標本箱に並べられます。他にカブト、クワガタのふれあいハウス、生きている成虫・幼虫の展示も試みます。さらに、クワガタの大型模型や映像機器を配置し、顕微鏡を使った観察デスクも設ける予定です。

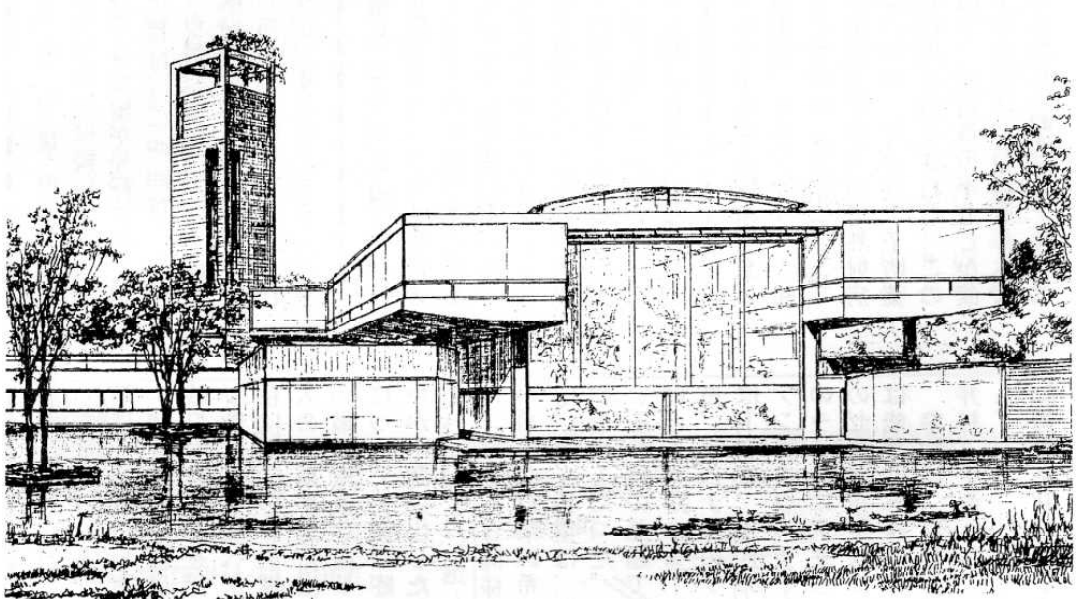
以上が2階の展示内容ですが、そのほかに「学習コーナー」があります。ここでは子供向けの図書で学習したり、パソコンでの昆虫クイズ、手づくりの遊具が楽しめます。

昆虫館の仕事は、以上のような展示の企画や飼育のほか、子供を対象とした昆虫教室や観察会などのソフトの面にも力を入れたいと思っています。また、昆虫館だよりも発行する予定です。

なお、昆虫館の前には池のある小さな生態園があります。まだ、幼木を植栽したばかりなので当分、野外展示はできませんが、少しずつ工夫していきたいと思っています。

昆虫館の展示や普及活動は職員ばかりでなく、昆虫を趣味としている人はもちろん、自然の好きな人、子供さんの考え方などを取り入れ、外来講師による講演会や一般の方の小テーマ展なども行いたいと思います。そのための展示スペースもあるので「こんな展示ができるよ」とか「こんな展示をやったら」といったアイデアがありましたら教えてください。

昆虫館は今年1月によやく建物が完成し、現在、数名の職員が展示作業、飼育、温室の管理などの雑務に追われ、多忙の毎日です。解決しなければならない問題点はありますし、皆さんの知恵や標本等を提供してもらおうと思いますが、その時はよろしくお願いします。



《とみさわ あきら 〒920-2113 鶴来町石川県ふれあい昆虫館》

甲虫グループ戦力ダウンか

新婚早々の江崎氏、またまた足の故障。今回は、キスーだかスノボーでこけた拍子にくるぶしを強打したらしい。良く故障するが、シーズンまでに回復しないと、大きな戦力ダウンとなる。

ギフチョウはいつ飛ぶか

三月三日に桜の開花予想が発表され、金沢の予想は四月二日と去年と同じ。ギフチョウの初飛予想は、開花予想のほしい十四日前。去年は十三日前の二十日に初飛が観察されたが、二三日前から飛んでいるようだった。今年の十四日前は木曜日なので、十八日前の十五日にでも調査に行こう。

昆虫館でカンヅメチェック

富沢、松井の二氏と西原君、三月七日は昆虫館で昆虫目録の最終チェック。九日には印刷に回るので、カンヅメ状態で総チェックをかけた。

目録掲載種は八〇〇弱

三月上旬によく印刷に回った昆虫目録、掲載種は七九〇〇余種と、八〇〇〇種にわずかに届かなかった。当初の予定は七〇〇〇種の突破だったのでこんなところでしょう。今後はこれを土台に九〇〇〇種目指してがんばろう。それには細かなデータでも石川県初記録は、こつこつ発表する事です。

春よ来い、早く飛んで来い

三月八日に一番隊、一四日に二番隊が出動したが、ギフは発見できなかった。スマレやマメザクラが咲き、ウグイスが鳴いているのに、春はまだ飛んでいなかった。

大型プロジェクト始動か?

奥能登や南加賀での昆虫調査の話が進行している。ライトトランプも計画され、泊まりも有るらしい。ひよつとすると、ドンチャンやりながら虫が採れるかもしれない。

埼玉県の昆虫誌Ⅲ

ディプテラに続いてハチ・コウチュウ編が発行された。ハチ目は一〇四四種、コウチュウ目は二七三六種と前回に続いてなかなかのもの。ネジレバネ一二種、ノミ二九種も有り、すごい。

市販品では虫も飼えない

市販のキャベツで北海道のオオモンシロを飼ったら全滅したなんて話は聞いている。オオモンシロはデリケートな虫だと思っていたら、市販のキャベツではモンシロも全滅するらしい。こんな恐ろしい物を人間は食べているのだ。

マラリア予防薬とは相性悪い

高田君、無事ジャワから帰国したものの、体はボロボロ。太陽が真上に有るので熱射病になったり、マラリア予防薬の副作用に悩まされた。この予防薬、使用量の半分しか飲んでないのに、頭は重く体はだるくなり、酒は厳禁となる。

例会の記録

二月五日(木)城南管工二階にて八時から開催。

間近に迫った昆虫目録の最終打ち合わせを行う。総ページ数は五〇〇ページ程、掲載種は七〇〇〇を越えそう、四人の原稿がまだ出ていない等の最新報告があり、本の装丁について協議。膨大な見本の中から選び出したのは、それぞれが別々に選んでいるのに、ほとんど同様となり、第一希望から第四希望までを決定。第一希望は、格子紬のゼフカラーだった。

その他の話題では、三匹だけどこれがニュージランドの虫、イムナダのタイプ採集地は下鴛原、一月の海岸を飛ばゲンゴロウ、ナイタースキーのライトに飛来した蛾、能登のゼフ分布予想図、ウラゴマは能登でも採れる、等々。

参加は、松井、高田、久慈、井村、中西、富沢、江崎の七人。

【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃべりの動き

何をやってるんだ！

金沢大学はお城の中の大学で有名だったのは昔の話。今は移転し、城址は石川県が管理している。大学は生態系に介入しないように管理してきたので、近頃ではタブの天然更新も見られ、城址は自然に戻りつつあった。わずか五ヘクタールの城址に四二万ヘクタールの県内に生息する約二割の一四〇〇種の昆虫が生息するとして、大串龍一教授は金沢を「昆虫と共存する都市」と言っていた。しかし、県が管理するや、大木を残して伐り払ってしまった。

虫誌ダイジェスト復活

「月刊むし」三二五号から同好会誌の書評コーナーが復活した。だんだん遅れの状態から、ついには休眠に入っ

いたが、七年の眠りから覚めた。地方の会誌を全国に紹介しているありがたいコーナーで、喜ぶべきことである。

徳本氏、超ハードスケジュール

昆虫目録でいろいろなパートを担当した徳本氏、年度末に向かい、爬虫類、陸生貝類と原稿締め切りが目白押し。さらにはクモの同定依頼もあり、夜も寝ないでがんばっている。

忙しくてもそれなりに

外資系にデューダした飯田氏、いつまで立っててもてんこ舞い。何しろ近畿、中国、四国を二人でカバーしなければならず、移動だけでも時間がかかる。でも、移動量が大きいほど、広い範囲で虫が採れる。

高田君の目撃記録

ジャワに行ってるはずの高田君が目撃された。ネットで確認すると、彼が居るではないか。政情不安でなかなかビザが取れなかったが、二月下旬にはビザが取れるらしい。

能登有料羽咋・穴水間が穴場

能登のゼフ調査のお奨めは何処か。これまで、宝達、石動、高洲、宝立と能登の高峰ばかりを狙っていたが、いずれも伐採が山頂まで及んでいる状況では、あまり期待できない。逆に能登有料道路周辺の雑木林が、カシワもあり案内穴場ではないだろうか。

名古屋のおじさん東京に転勤

この三月までで名古屋とおさらばすることになった野中氏、金沢の秘密兵器を呼び寄せ、最後の悪あがき。さすがにおじさんの読みはピタリと当たり、秘密兵器は愛知県産オオトラとアオタマを掘り出すのだった。

翔

NO. 131

1998年4月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

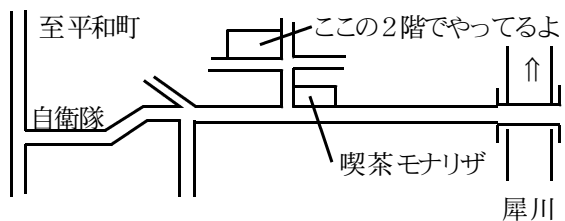
☎920-01 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から

TEL 参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (131号)

松井正人：1997年アサギマダラ日記	1
松井正人・井村正行・西原昇吾：輪島市三井の甲虫類	3
松井正人：「石川県の蝶の記録」大集計	4
嵯峨井淳郎：昆虫関係ホームページにアクセスしよう	7
富沢 章：石川県ふれあい昆虫館、7月オープン	9
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	12

目 次 (131号)

松井正人：1997年アサギマダラ日記	1
松井正人・井村正行・西原昇吾：輪島市三井の甲虫類	3
松井正人：「石川県の蝶の記録」大集計	4
嵯峨井淳郎：昆虫関係ホームページにアクセスしよう	7
富沢 章：石川県ふれあい昆虫館、7月オープン	9
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	12